

ジェトロ「ビジネス短信」添付資料

表 薬価引き下げ交渉の対象となる医薬品の現状（2023年10月3日時点）

	製造事業者	処方薬名	症状	利用者数（注1）	平均年自己負担額（ドル） （注2）
1	ブリストル・マイヤーズ・スクイブ	エリキュース	血栓の予防と治療	370万6000人	608
2	ペーリンガー・インゲルハイム	ジャディアンス	糖尿病・心不全	157万3000人	490
3	ヤンセンファーマ	チャレルト	血栓の予防と治療 冠動脈疾患または末梢動脈疾患患者 のリスク軽減	133万7000人	617
4	メルク・シャープ&ドーム	ジャヌビア	糖尿病	86万9000人	502
5	アストラゼネカ	ファシーガ	糖尿病・心不全・慢性腎臓病	79万9000人	448
6	ノバルティス・ファーマ	エントレスト	心不全	58万7000人	569
7	イミュネックス	エンブレル	関節リウマチ・乾癬（かんせん）・ 乾癬性関節炎	4万8000人	2,005
8	ファーマシークリクスLLC	インブルヴィカ	白血病	2万人	6,497
9	ヤンセン・バイオテック	ステララ	乾癬・乾癬性関節炎・クローン病・ 潰瘍性大腸炎	2万2000人	4,207
10	ノボノルディスク	フィアスプ他	糖尿病	77万7000人	261

（注1） 利用者数は、2022年6月から2023年5月までの間に当該医薬品を使用したメディケアD登録者の数。

（注2） 平均自己負担額は2022年暦年の数値。

（出所） ホワイトハウスHP